

(様式第 9 号)

高槻市立第七中学校区運営協議会 会議録

令和 6 年 1 1 月 日作成

会議の名称	令和 6 年度 高槻市立第七中学校区 学校運営協議会		
会議の開催日時	令和 6 年 1 1 月 2 2 日 (月) 18:00～19:10		
会議の開催場所	高槻市立柱本小学校 ランチルーム	公開の可否	可
担当課	教育指導課 教育総務課	傍聴者数	2 人
非公開の理由 (非公開(会議の一部非公開を含む)の場合)			
出席委員	井上 正人、綿野 勝夫、北元 正志、重松 良之、 井上 幸子、森 康子、今井 かよ		
事務局出席者	(第七中学校) 北村 幸之、三鬼 圭介、橋長 弓枝、 河合 直樹、稲垣 達也、今村 豪之、井戸 洋輔 (三箇牧小学校) 近藤 利起、後藤 大輔、松本 洋介 永安 晃平、中田 緩子、谷垣 真実、阿野 巧大 (柱本小学校) 田邊 啓介、高橋 明日香、池部 真由美 神田 剛、亀谷 昇平、春日井 祐輔、奥田 祥子 中嶋 壮馬		
会議の議題	1. 学校視察の感想 2. 今年度の重点取り組みの進捗状況について		

	3. 令和6年度学校教育自己診断アンケートについて 4. 第3回学校運営協議会の日程等について
配付資料	資料1 令和6年度 第七中学校区グランドデザイン 資料2-1 学校教育自己診断アンケート（保護者用） 資料2-2 学校教育自己診断アンケート（高学年用） 資料2-3 【中学校・生徒用】アンケート
審議等の内容	

（別紙）

高槻市立第七中学校区運営協議会 会議録

開会	校長 挨拶
議題1	学校視察の感想 【説明内容】 三箇牧小・柱本小へ →子どもたちに考えさせる、思考力をつけるなど、考える授業の場면을多く観ることができた。先生方の努力を感じた。 柱本小へ 先生が見守り、子どもたちが主体的に活動している。子どもの取組を外から見守っていた。 七中へ →すべての各学級に入った。昨年度学校がしんどい子もいたと聞いていたが、各学級で落ち着いて学習をしていた。隣の席の生徒といっしょに考えたり、教え合ったりしており、学級づくりがしっかりできていると感じた。男女共修で体育をしている場面では、男女の差をどう縮めるのか気になった。体育の好きな生徒を増やしてほしい。

	七中へ →参観の様子を勤務校の校長ブログにアップした。 生徒の「どうしたらいいの？」に先生が丁寧に答えていた。 うまく生徒の興味関心を引きながら、自然と英語を学ばせようという授業がなされていた。地域の子どもたちの確かな学力につながればよい。
議題2	今年度の重点取り組みの進捗状況について 学校より説明→質疑応答
学校	【説明内容】 「安全教育の充実」について ・トランシーバーの活用 ・職員研修「心肺蘇生」「アレルギー対応（エピペン）」 「不審者対応実地訓練」 ・「たかつき安全 NOTE」の活用 ・出前授業「防災教育」「ライフジャケット体験」 「安心して心豊かに過ごせる居場所づくり」について ・クラスミーティング、学年集会の実施 ・人権教育学習（障がい理解、多文化共生等）の実施 ・自分の考えをもとに行動する力の育成 ・学校いごこちアンケート、教育相談の実施 ・教育支援センター（校内適応指導教室）の設置・活用 「主体的に学ぶ力の育成」について ・学習意欲を育むための放課後学習会 ・生き方を知り、自分の生き方を考えるキャリア教育 ・児童自ら探究課題を見つけ出す探求学習
委員	【質疑応答】 職員の実地訓練について、発表校以外の学校での取り組みは行われているのか。
学校	3校ともに行っている。今年度行えなかった訓練については、来年度以降行えるよう検討していく。
委員	校内適応指導教室について、各校何名くらい利用しており、スモールステップを経て教室復帰をした例などを教えてほしい。 各校数名ずつ利用。利用の仕方は一人ひとり違う。支援員さんと連携し、対話を重ね、少しずつ慣れながら教室復帰をした児童・生徒や、

学校 委員 委員 学校 委員 学校	全く教室に入れないわけではなく、力をためながらステップルームとして活用している児童・生徒がいる。 放課後学習で下学年に教える取り組みについて、教えるほうも自信をもって帰ってきていたのでとてもいい取り組みだと思った。 アレルギー対応訓練など、やってくれていることに感謝している。 校内適応指導教室について、学校に行くのがしんどい子ども個別性を重視してもらえてありがたいと思える反面、行きたくないと思っている生徒に対する学校の方針、対応はどうしているのか。自分で選択する力も必要なのでは。 無理やり来させるようにはしていない。学校とつながりを切らないことを大切にしている。一人ひとりの状況に応じて対応し、本人も保護者にも学校は見てくれていと感じてもらえる関係作りを大切にしているようにしている。 放課後学習について、行きたくない、おもしろくないと言ってる子に学校からの PR、行きたくなるようなアピールをしているのか。 開催する上で、①基礎基本の定着 ②家庭学習の定着 自学自習の習慣をつける場として運用している。子どもたちはとても真面目に真剣に取り組んでおり、わいわいと楽しむ雰囲気ではない。 一方で、より多くの子どもたちに PR するということは考えて周知していきたい。 話をしながら学び合う、教え合う部屋があってもいいのでは。聞きたくても聞けない子どももいる。そのほうが楽しんでいけるかもしれない。 放課後学習会はどのような方が人員として確保されているのか。教育委員会から人の配置など、外部依頼はあるのか。 小学校では、ボランティアさんに来てもらったり、担当者一人ではやるのではなく教員全員で行ったりしている。 中学校では、基本学校教員で対応し、学生ボランティアの活用もしている。テスト前は意欲的に生徒が参加している。
議題 3	令和 6 年度学校教育自己診断アンケートについて 学校より説明→質疑応答 【説明内容】 昨年度からコミュニティ・スクールとしての評価を得るために、校区

	で共通した項目を設定した。現在調査中で、第3回学校運営協議会で結果を示す。 資料の訂正あり：資料2-2、2-3 設問10 共通項目の網掛けが抜けている 【質疑応答】 委員 指標について保護者がわかりにくい設問もある。保護者の声を聞かないのか？ 学校での取り組みをもっと発信していく方法など、ほかの保護者が実感できる機会があれば。 学校 両小学校の交流など、子どもたち同志で同じ空間を過ごす場を作っている。学校だよりなどで発信もしているが、その活動が保護者にもっと伝わるよう意識していく。
議題4	第3回学校運営協議会の日程等について 学校より説明
閉会	校長挨拶